

褐色葉枯病

病原菌	<i>Stemphylium botryosum</i>
病徴	養成株で発生する。発病株は、葉身に長径 3 ～ 6 c m の淡褐色・紡錘形病斑を形成する。 病斑ははじめ表面のみに生じるが後に裏面にまで達する。病斑が葉幅全体に広がると、病斑部より先が淡褐色～淡紫色に変色し枯れる。古い病斑は中央部に褐色の分生子を噴出する。
 	
発生圃場 発病葉	
発生時期	5 ～ 6 月、9 ～ 1 0 月
診断方法	圃場の排水不良部分、低温
診断方法	古い病斑は中央部に褐色の分生子を噴出し、これは肉眼でも確認できる。古い病斑を採取し、これを顕微鏡下で観察すると褐色～無色、幅は平均 5. 3 μm で先端部が膨らんだ分生子柄が確認できる。分生子は、分生子柄先端に単生し、褐色～淡褐色、俵形で縦横に隔壁を有し、大きさ平均 3 0. 3 × 2 1. 9 μm である。古い病斑がない場合は、1 5 °C 温室に罹病葉を 1 ～ 3 日程度放置すると分生子を噴出する。
	
病原菌の分生子	